

2024年度 第1回フィジカルイン
ターネット実現会議(2024.06.26)

北海道地域フィジカルインターネット 懇談会などから 生まれた「フィジカルな連携」

2024年06月26日
於 経済産業省,東京

北海商科大学
相浦宣徳

- (1) なぜ、(供給サイドの)食料基地・北海道で
- (2) 目指したところ
物流機能に基いた地域戦略の具現化にむけた
フィジカルインターネットの可能性
- (3) 生まれた連携
縦割りの活動から横の連携へ + 業界を超えた連携
- (4) その後
北海道物流プラットフォーム ～ 加速する連携と具体の取り組み
- (5) おわりに

(1) なぜ、(供給サイドの)食料基地・北海道で

北海道の他地域に対する特異性

①長、②疎、③ほそり、④分布のズレ

Keyword: 「①長」

日用品などの移入

全国から北海道へ



加工食品



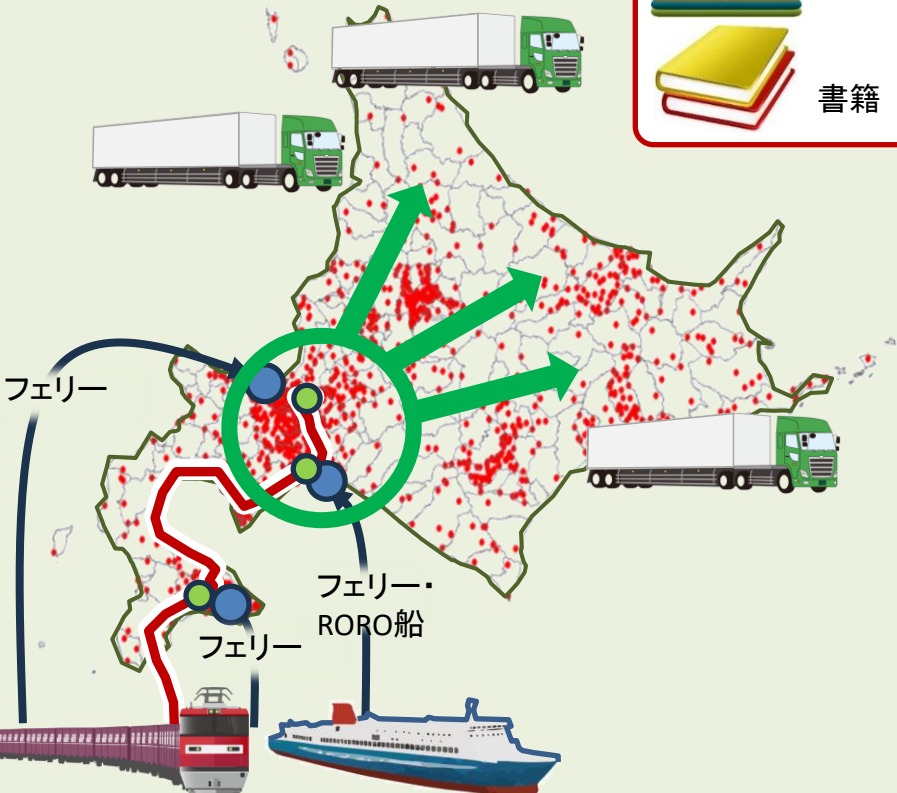
衣料品



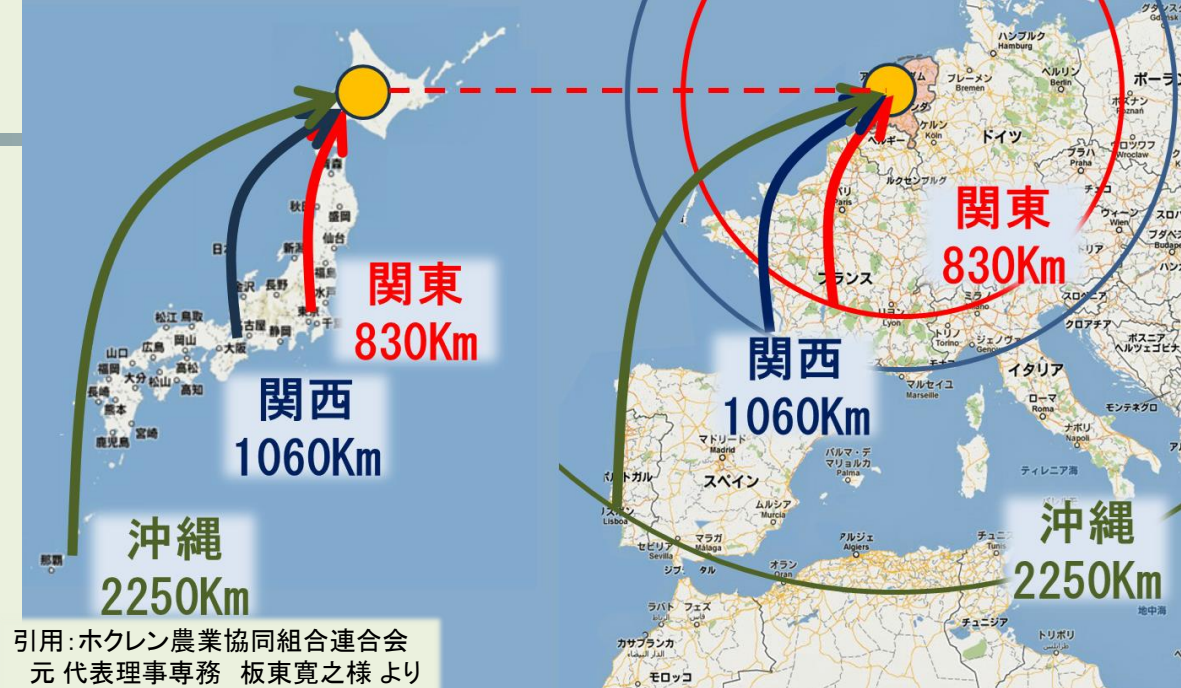
書籍



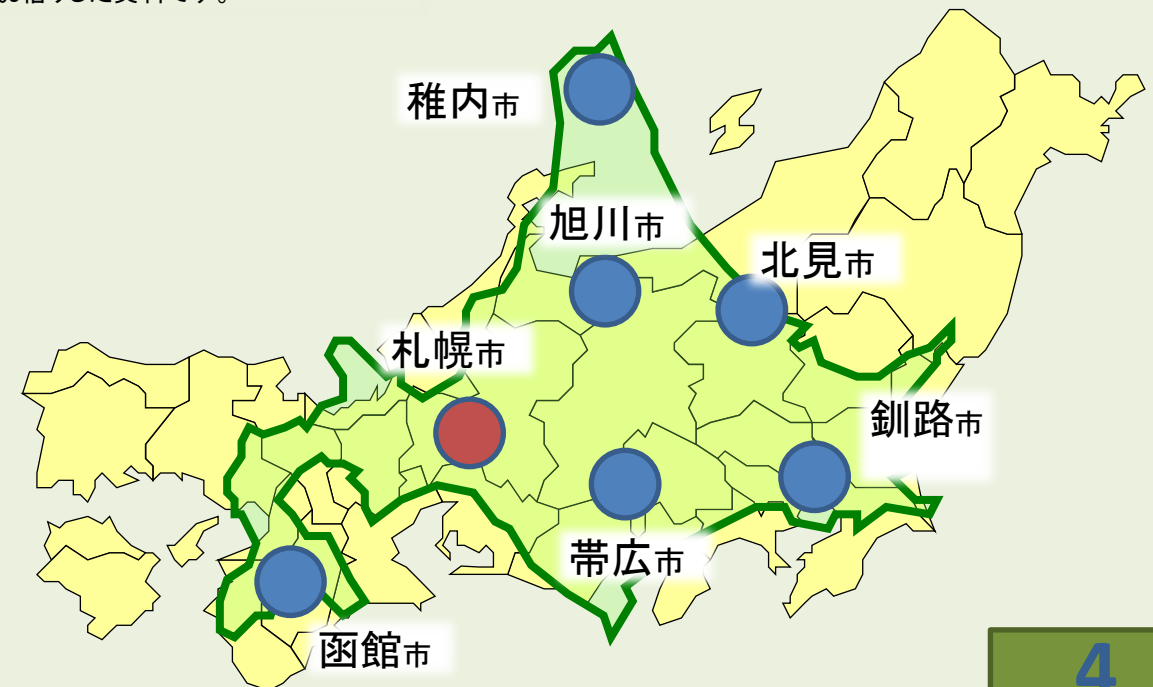
雑貨



注: 3,000人/ dot ArcGISにより作成・市町村界データ: 全国市町村界データver8.0 (Esri)
人口・世帯数データ: 「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (平成28年1月1日現在) 総務省」



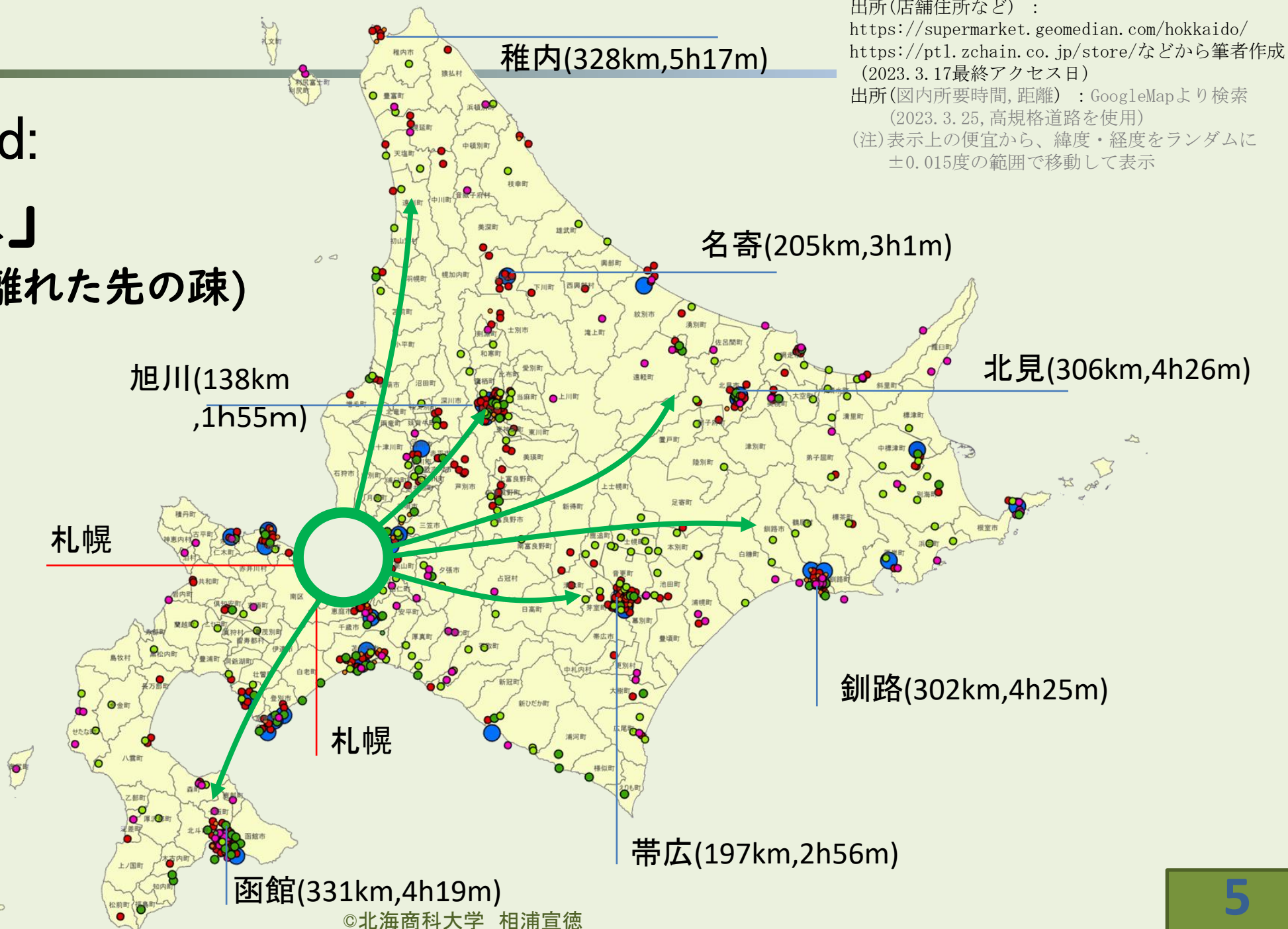
引用: ホクレン農業協同組合連合会
元 代表理事専務 板東寛之様 より
お借りした資料です。



Keyword: 「②疎」

(数百キロ離れた先の疎)

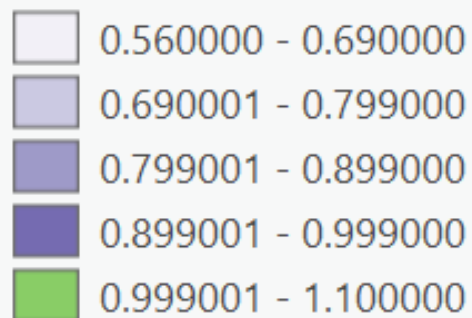
- 総合スーパー
- コープさっぽろ
- JA・ホクレン
- 食品スーパー
- 小型スーパー
- 高級スーパー
- 激安スーパー
- ディスカウントショップ



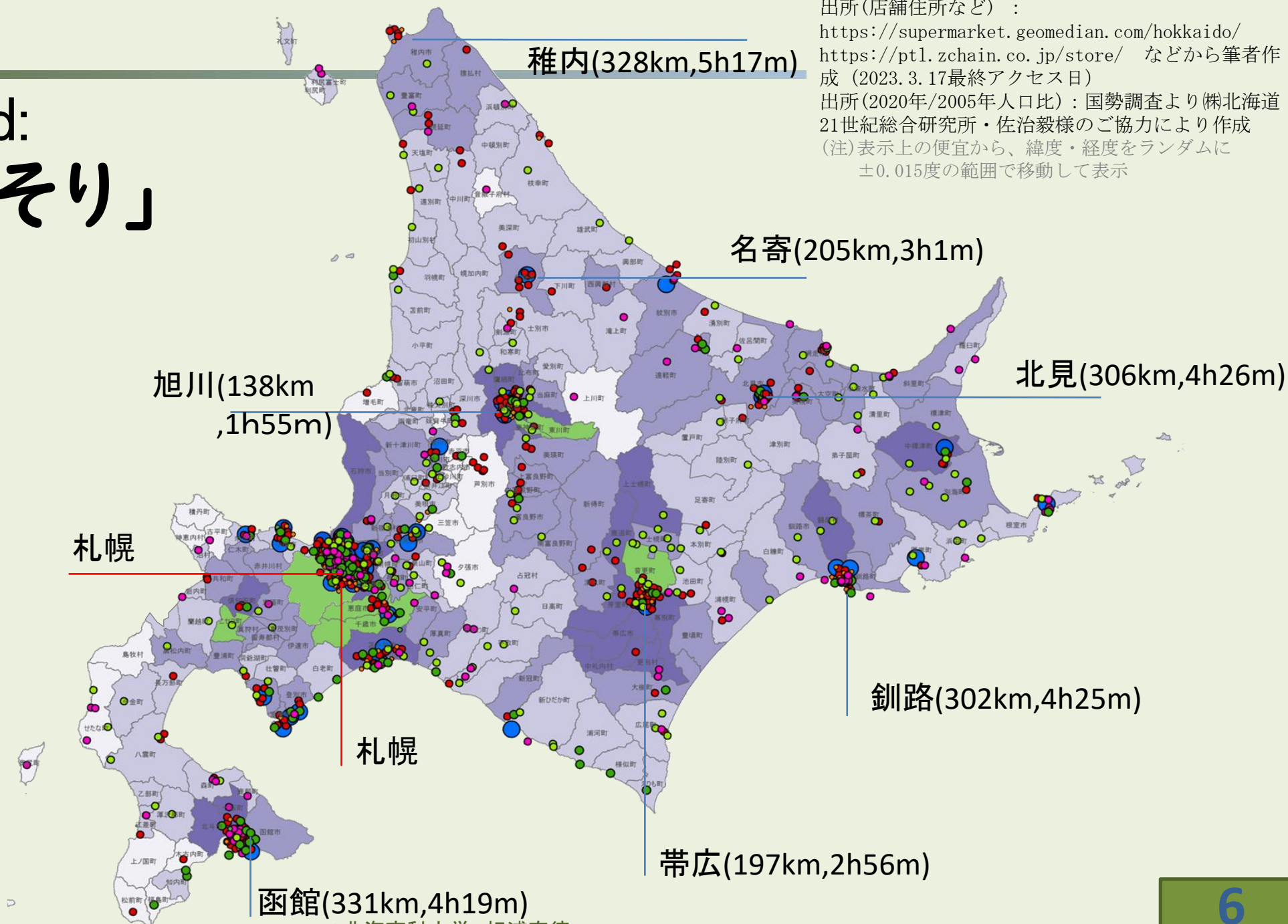
出所(店舗住所など) :
<https://supermarket.geomedian.com/hokkaido/>
<https://ptl.zchain.co.jp/store/>などから筆者作成
(2023. 3. 17最終アクセス日)
出所(図内所要時間, 距離) : GoogleMapより検索
(2023. 3. 25, 高規格道路を使用)
(注)表示上の便宜から、緯度・経度をランダムに
±0.015度の範囲で移動して表示

Keyword: 「③ほそり」

2020年/2005年



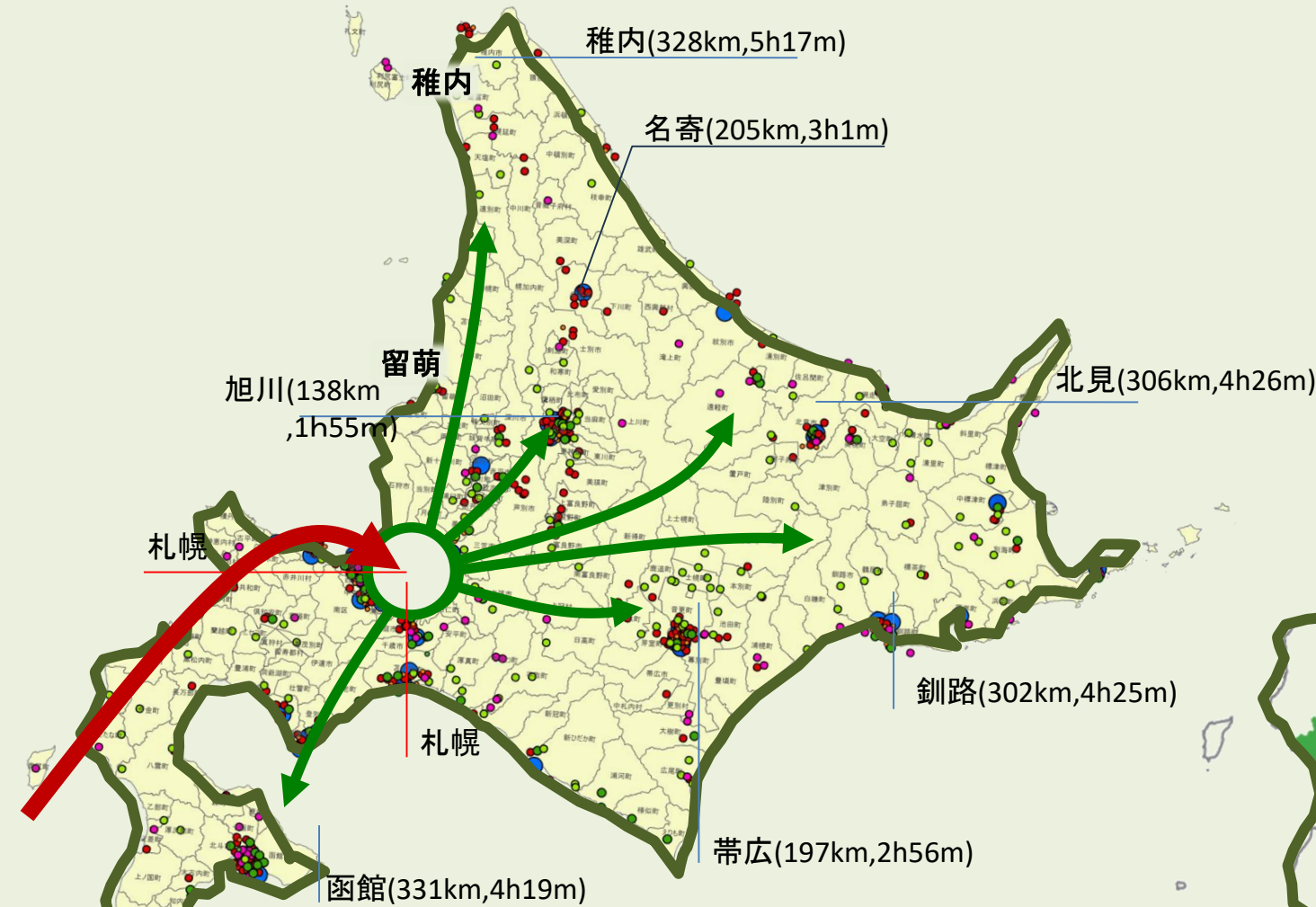
- 総合スーパー
- コープさっぽろ
- JA・ホクレン
- 食品スーパー
- 小型スーパー
- 高級スーパー
- 激安スーパー
- ディスカウントショップ



出所(店舗住所など) :
<https://supermarket.geomedian.com/hokkaido/>
<https://ptl.zchain.co.jp/store/> などから筆者作成 (2023. 3. 17最終アクセス日)
出所(2020年/2005年人口比) : 国勢調査より(株北海道21世紀総合研究所・佐治毅様のご協力により作成
(注)表示上の便宜から、緯度・経度をランダムに±0.015度の範囲で移動して表示

Keyword: 「④分布のズレ」

農業就業者1人あたり農業産出額が
全道平均以上の市町村の分布



北海道から全国へ(移出)



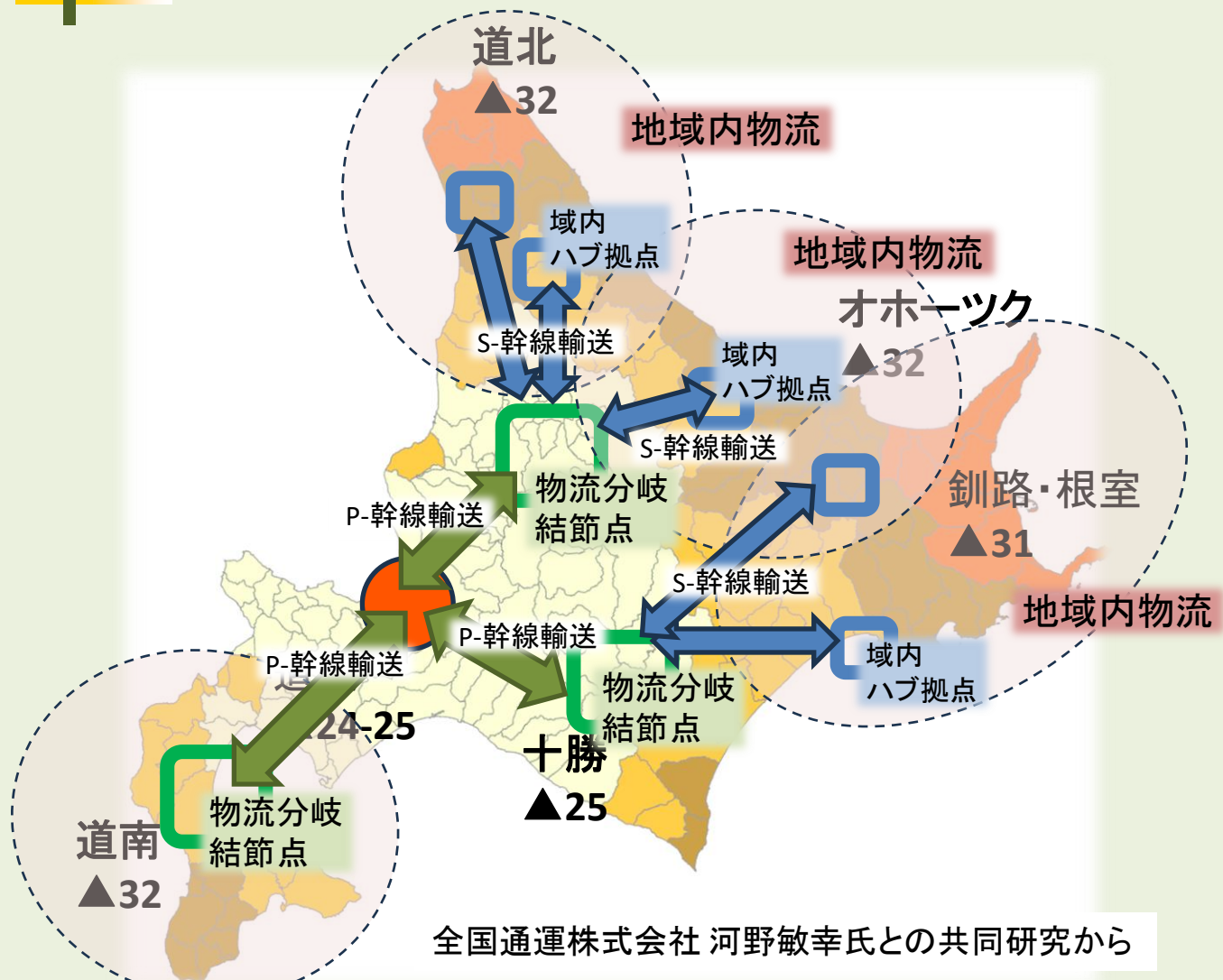
農産品, 畜産品, 水産品,
関連する食料品

引用: 「守れ! 北海道の生産空間
(国土交通省・北海道局)」

(2) 目指したところ

物流機能に基いた地域戦略の具現化にむけたフィジカ
ルインターネットの可能性

物流機能に基いた地域戦略



実現が期待される施策

- ① 「物流分岐結節点」・「域内ハブ拠点」を活用した大ロット(積合せ)共同輸送
- ② 「物流分岐結節点」を核とした中継輸送
- ③ 「P-幹線輸送」・「S-幹線輸送」における地域シェアリング
- ④ 「地域内物流」における地域シェアリング
- ⑤ 「域内ハブ拠点」の保管機能による季節変動の抑制
- ⑥ 片荷解消 (空車、空コンテナ利用促進)

地理的特異性・道内地域性と「物流機能」をベースとした地域戦略

地域フィジカルインターネットへの期待と可能性

(あ) 連携の範囲

(複数のSCの束ね,
エリア内の束ね)

③拡大した
縦横の連携
(業種,品目を跨いだ連携)

②水平連携
(同業種間などの連携)

①垂直統合
(B2B2Cの
SC内)

③業務の標準化

②荷姿の標準化

①情報の標準化

物流・商流データ基盤(通称, SIP基盤)とは
近年、我が国の物流業界が抱える(中略)の課題に対し
て、これまでの個社やグループ単位の「個別最適」の物
流から、情報に基づく計画物流を構築しサステナブル
な「全体最適」の物流を目指して、個々に蓄積されてい
るデータを繋ぎ合わせ、各社が共有化してデータを活用
できるデータ基盤として構築されたものです。

(引用: 物流情報標準ガイドライン, 一部改変)

デジタル化されたSCMの展開にも
(レガシーシステムへの強い依存が...)

: 物流情報標準
ガイドライン準拠
・解放的・中立的なPF

①取引パートナー間の納品伝票などの電子化と情報の蓄積,
限定された範囲での電子化をベースとした実オペレーション

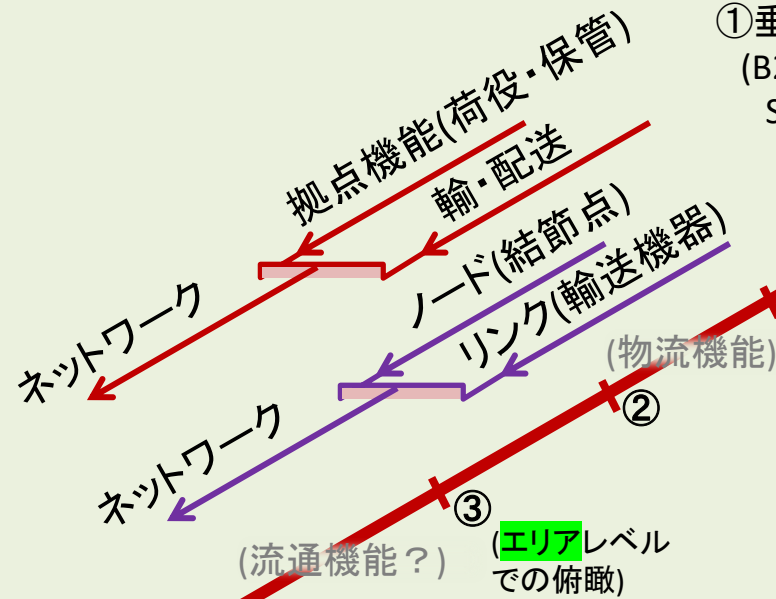
①~②: ①の統合 物流・商流データ基盤(通称SIP基盤)
上での情報の連携・蓄積 (APSモジュール等との連動, OI化?)

②-1 協調シナリオの策定・効果測定

②-2 商慣習見直しシナリオの策定・効果測定

③ 同一基盤上に蓄積・実装された
物流・商流データやサービスを用いた
実オペレーション (効率性・強靱性)

(い) 協調領域の範囲



(う) 電子化(データ連携・蓄積)と活用

(3) 生まれた連携

縦割りの活動から横の連携へ
＋ 業界を超えた連携

①北海道開発局

(2.19)共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム

②北海道運輸局

(2.21)トラック運送業者連携・共創の集い in 十勝



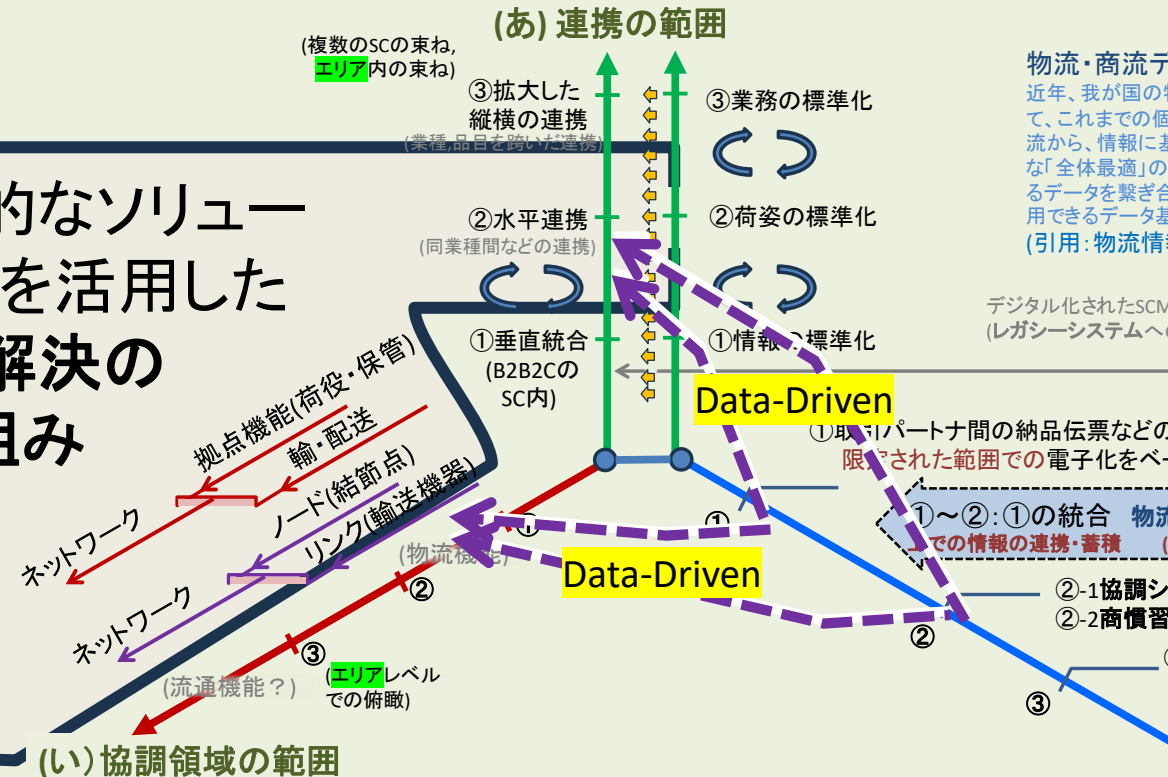
北海道物流研究会

(2023.05)発足
(05.18)第1回研究会
(08.18)第2回研究会
(11.13)第3回研究会
(02.22)第4回研究会

JR貨物 × 北海通運業連合会

(2.21-22)道内下り貨物における
コンテナ利用実証実験
(2.22)災害時輸送システムに係る実証実験

具体的なソリューションを活用した
課題解決の取り組み



物流・商流
近年、我が国の
て、これまでの個
流から、情報に基
な「全体最適」の
るデータを繋ぎ合
用できるデータ基
(引用:物流情

デジタル化されたSCM
(レガシーシステムへ

(う) 電子化(デー

生まれた「連携」



国土交通省 ・ 経済産業省 が連携

(北海道開発局・北海道運輸局) (北海道経済産業局)

1日目 2月19日 インフラから考える物流

国土交通省 (北海道開発局・北海道運輸局)

共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム

- 2024年問題とその背景 (北海道運輸局)
- 今年度事業の成果報告 (北海道開発局)
 - これまでの検討経緯
 - 「場所」に関する取組
道の駅等における実証実験
名寄市における物流・防災拠点化構想
 - 「仕組み」に関する取組
『北海道物流マッチングモデル「ロジスク」』
リレイブリス構想
 - デジタル技術による物流の可視化の取組

パネルディスカッション

テーマ：北海道における共同輸送・中継輸送の実装に向けて～「場所」と「仕組み」～

登壇者：北見工業大学地域未来デザイン工学科教授 高橋清 氏
北海道商科大学商学部商学科教授 相浦宣徳 氏
名寄商工会議所、ヤマト運輸(株)、北海道開発局

2日目 2月20日 産業から考える物流

経済産業省 (北海道経済産業局)

北海道地域フィジカルインターネット懇談会

- 道内事業者の物流実態及び共同化の可能性分析 (野村総合研究所)
- 経済産業省による実証事業報告 (経済産業省・実証事業者)
 - 物流情報の電子化・データ連携促進
 - 小売業の発注DX (在庫管理・需要予測)
- 政策に関するご紹介
- パネルディスカッション

テーマ：北海道における持続可能な物流のあり方～業種の枠を超えた共同配送へ～

登壇者：北海道商科大学商学部商学科教授 相浦宣徳 氏
北見工業大学地域未来デザイン工学科教授 高橋清 氏
イオン北海道(株)、国分北海道(株)、F-LINE(株)

日時 2月19日(月) 共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム
2月20日(火) 北海道地域フィジカルインターネット懇談会
いずれも14:00～17:00

場所 いずれもアスティホール (アスティ45ビル 4階)

地域を支える効率的な物流システムの構築には、産業面から、それを支えるインフラ面からと多角的な検討が必要のため、北海道開発局・北海道運輸局・北海道経済産業局の道内3機関が連携して、検討を進めています。

協力：日本物流学会・北海道商工会議所連合会・北海道通運業連合会・北海道トラック協会

残り1,000時間

物流インフラ と 流通システム の たすき掛け

国土交通省 ・ 経済産業省 が連携

(北海道開発局・北海道運輸局) (北海道経済産業局)

1日目 2月19日 インフラから考える物流

国土交通省 (北海道開発局・北海道運輸局)

共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム

- 2024年問題とその背景 (北海道運輸局)
- 今年度事業の成果報告 (北海道開発局)
 - これまでの検討経緯
 - 「場所」に関する取組
道の駅等における実証実験
名寄市における物流・防災拠点化構想
 - 「仕組み」に関する取組
『北海道物流マッチングモデル「ロジスク」』
リレイブリス構想
 - デジタル技術による物流の可視化の取組

パネルディスカッション

テーマ：北海道における共同輸送・中継輸送の実装に向けて～「場所」と「仕組み」～

登壇者：北見工業大学地域未来デザイン工学科教授 高橋清 氏
北海道商科大学商学部商学科教授 相浦宣徳 氏
名寄商工会議所、ヤマト運輸(株)、北海道開発局

2日目 2月20日 産業から考える物流

経済産業省 (北海道経済産業局)

北海道地域フィジカルインターネット懇談会

- 道内事業者の物流実態及び共同化の可能性分析 (野村総合研究所)
- 経済産業省による実証事業報告 (経済産業省・実証事業者)
 - 物流情報の電子化・データ連携促進
 - 小売業の発注DX (在庫管理・需要予測)
- 政策に関するご紹介
- パネルディスカッション

テーマ：北海道における持続可能な物流のあり方～業種の枠を超えた共同配送へ～

登壇者：北海道商科大学商学部商学科教授 相浦宣徳 氏
北見工業大学地域未来デザイン工学科教授 高橋清 氏
イオン北海道(株)、国分北海道(株)、F-LINE(株)

日時 2月19日(月) 共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム
2月20日(火) 北海道地域フィジカルインターネット懇談会
いずれも14:00～17:00

場所 いずれもアスティホール (アスティ45ビル 4階)

地域を支える効率的な物流システムの構築には、産業面から、それを支えるインフラ面からと多角的な検討が必要のため、北海道開発局・北海道運輸局・北海道経済産業局の道内3機関が連携して、検討を進めています。

協力：日本物流学会・北海道商工会議所連合会・北海道通運業連合会・北海道トラック協会

残り1,000時間

「北海道物流WEEK」について



国土交通省
北海道開発局・北海道運輸局



経済産業省
北海道経済産業局

2月19日（月）～22日（木）の期間を「北海道物流WEEK」とし、行政機関・関係団体・事業者等が連携して「2024年問題」を共に乗り越えるためのイベント・取組を開催。



第1便

北海道の物流と地域の将来を考える2日間

2月19日（月）
～20日（火）

国土交通省（北海道開発局・北海道運輸局）
「共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム」
経済産業省（北海道経済産業局）
「北海道地域フィジカルインターネット懇談会」

第2便

北海道の物流と地域の将来を考える実証実験

2月21日（水）
～22日（木）

J R貨物×北海道通運業連合会の共催による
モーダルコンビネーション推進に向けた新たなチャレンジの2days

第3便

トラック運送業者連携・共創の集い in十勝

2月21日（水）

北海道運輸局・北海道開発局の共催によりマッチングイベントを開催

第4便

北海道トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会

2月21日（水）

北海道運輸局・北海道労働局・北海道トラック協会の共催により開催

第5便

北海道物流研究会

2月22日（木）

※物流問題の課題解決と新たな北海道物流ネットワークの構築に向けた検討を行うため、イオン北海道(株)、(株)西友、(株)トライアルホールディングス、北雄ラッキー(株)など趣旨に賛同する14社で令和5年5月に発足

第6便

スワップボディコンテナ車両展示会

2月22日（木）

札幌商工会議所運輸・自動車部会・北海道物流人倶楽部の共催により開催

「2024年問題」を
共に乗り越えるまで

※セミナー1日目(2月19日)8:00
から4月1日0:00までの時間



協力：日本物流学会・北海道商工会議所連合会・北海道通運業連合会・北海道トラック協会・日本貨物鉄道(株)北海道支社・北海道労働局・北海道物流研究会

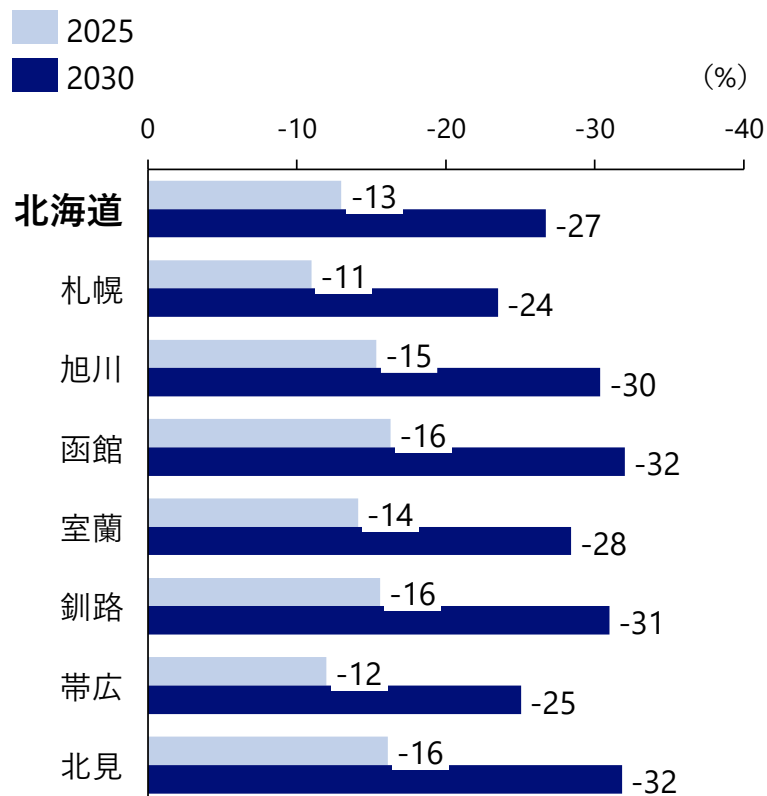
積載率の向上による「ドライバー不足の解消」

仕様（２） | 対象地域の物流課題調査 | 道内物流実態の把握 | マクロ統計分析

業界横断での共同配送の浸透により、積載効率が2030年度に50%まで向上*すると、札幌や帯広におけるドライバー不足は解消する。その他地域ではギャップが残るも、大きく改善

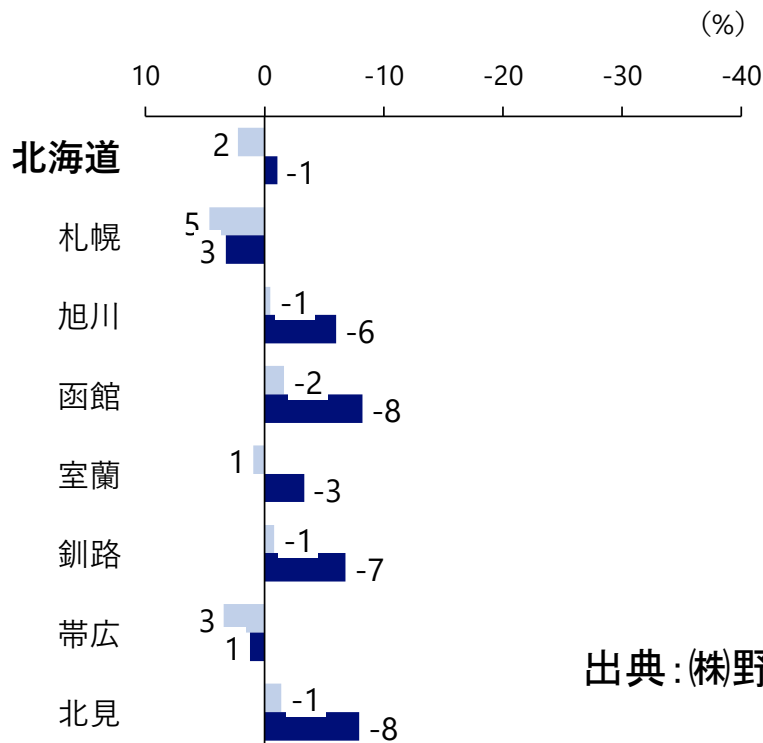
* 2025年度については、2020年度の実績値と2030年度の仮定値（50%）との平均値を採用した

道内地域別のドライバー需給ギャップ（成行シナリオ）



出所) NRI予測

道内地域別のドライバー需給ギャップ（共配シナリオ）



出典: (株)野村総合研究所より貸与

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. NRI

共同輸送を核とした「積載率の向上」が議論の中心に

物流インフラ と 流通システム の たすき掛け

国土交通省 (北海道開発局・北海道運輸局) ・ **経済産業省** (北海道経済産業局) が連携

1日目 2月19日 **インフラから考える物流**
国土交通省 (北海道開発局・北海道運輸局)
共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム
■ 2024年問題とその背景 (北海道運輸局)
■ 今年度事業の成果報告 (北海道開発局)
● これまでの検討経緯
● 「場所」に関する取組
● 道の駅等における実証実験
● 各都市における物流・防災拠点化構想
● 「仕組み」に関する取組
● 「北海道産」物流マッチングモデル「ロジック」
● リレプレイス構想
● デジタル技術による物流の可視化の取組
■ パネルディスカッション
テーマ：北海道における共同輸送・中継輸送の実装に向けて「場所」と「仕組み」へ
登壇者：北見工業大学地域未来デザイン工学科教授 高橋清 氏
北海道商科大学商学部商学科教授 相浦宣徳 氏
名寄商工会議所、ヤマト運輸(株)、北海道開発局

2日目 2月20日 **産業から考える物流**
経済産業省 (北海道経済産業局)
北海道地域フィジカルインターネット懇談会
■ 道内事業者の物流実態及び共同化の可能性分析 (野村総合研究所)
■ 経済産業省による実証事業報告 (経済産業省・実証事業者)
● 物流情報の電子化・データ連携促進
● 小売業の発注DX (在庫管理・需要予測)
■ 政策に関するご紹介
■ パネルディスカッション
テーマ：北海道における持続可能な物流のあり方
～業種の特を超えた共同配送へ～
登壇者：北海道商科大学商学部商学科教授 相浦宣徳 氏
北見工業大学地域未来デザイン工学科教授 高橋清 氏
イオン北海道(株)、国分北海道(株)、F-LINE(株)

日時 2月19日(月) 共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム
2月20日(火) 北海道地域フィジカルインターネット懇談会
いずれも14:00～17:00

場所 いずれもアスティホール (アスティ45ビル4階)

「2024年問題」を共に乗り越えるまで
※セミナー1日目(2月19日)8:00から4月1日0:00までの時間

残り 1,000 時間

地域を支える効率的な物流システムの構築には、産業面から、それを支えるインフラ面からと多角的な検討が必要のため、北海道開発局・北海道運輸局・北海道経済産業局の道内3機関が連携して、検討を進めています。
協力：日本物流学会・北海道商工会議所連合会・北海道通運業連合会・北海道トラック協会

4.場所と仕組み

- ①中継・共同輸送の要となる拠点の整備
- ②リンクの高速化や輸送力の強化
- ③広域分散型の地域構造を基本に整備されたインフラの有効活用
- ④商習慣も含めソフト面の検討(マッチングと拠点の在り方)

1.異業種連携の必要性和課題

- ①小売業界における需給バランスの偏り
- ②小売業界における厳しい納品要件

2.課題解決に向けて協調し得る領域

- ①納品時間、②リードタイム、③荷姿の標準化

3.課題解決にむけた方法

- ①発着荷主とのリードタイム交渉
- ②他品目(青果物など)との帰荷マッチング
- ③輸送頻度の低減
- ④消費者に向けた課題周知
- ⑤行政主導による商習慣の改善
- ⑥貨物鉄道輸送、海上輸送の活用
- ⑦物流・商流データプラットフォーム

出所：報告書より(一部改変)

(4) その後

北海道物流プラットフォーム
～ 加速する連携と具体の取り組み

「北海道物流プラットフォーム」の設立

「北海道物流WEEK」について



2月19日（月）～22日（木）の期間を「北海道物流WEEK」とし、行政機関・関係団体・事業者等が連携して「2024年問題」を共に乗り越えるためのイベント・取組を開催。



第1便 北海道の物流と地域の将来を考える2日間
2月19日（月）～20日（火）
国土交通省（北海道開発局・北海道運輸局）
「共同輸送・中継輸送を考えるシンポジウム」
経済産業省（北海道経済産業局）
「北海道地域フィジカルインターネット懇談会」

第2便 北海道の物流と地域の将来を考える実証実験
2月21日（水）～22日（木）
J R 貨物×北海道通運連合会の共催による
モーダルコンビネーション推進に向けた新たなチャレンジの2days

第3便 トラック運送業者連携・共創の集い in十勝
2月21日（水）
北海道運輸局・北海道開発局の共催によりマッチングイベントを開催

第4便 北海道トラック輸送における取引環境・労働時間改善地方協議会
2月21日（水）
北海道運輸局・北海道労働局・北海道トラック協会の共催により開催

第5便 北海道物流研究会
2月22日（木）
※物流問題の課題解決と新たな北海道物流ネットワークの構築に向けた検討を行うため、イオン北海道(株)、(株)西友、(株)トライアルホールディングス、北越ラッキー(株)など趣旨に賛同する14社で令和5年5月に発足

第6便 スワップボディコンテナ車両展示会
2月22日（木）
札幌商工会議所運輸・自動車部会・北海道物流人倶楽部の共催により開催

協力：日本物流学会・北海道商工会議所連合会・北海道通運連合会・北海道トラック協会・日本貨物鉄道(株)北海道支社・北海道労働局・北海道物流研究会

出所：北海道開発局
・北海道経済産業局資料より

今後に向けた展開

令和6年3月21日「北海道物流プラットフォーム」の設立

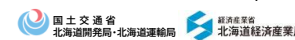
【設立趣旨】

- 「北海道物流WEEK」を機に、このつながりを今後大いに発展させるため、北海道における物流の課題解決や新たなチャレンジを实践、協力し合うなど継続的な情報交換・発信の「場」として、「北海道物流プラットフォーム」を設立する。
- 北海道における物流に関して、各団体が取り組みを検討していくなかで、部分最適だけでは不足する部分を相談したり、今回一連のイベント・取組として開催した「北海道物流WEEK」のように、関係者が一体的に連携することでインパクトが出るような企画について協力することを主眼とする。

【運営体制】

- 当初は北海道開発局・北海道運輸局・北海道経済産業局が中心となって担い、「北海道物流WEEK」を契機とした設立趣旨に賛同する有志を構成員とし、構成員の発議を受けて随時、情報交換を行う。（定期的な場も一定程度設定）
⇒本日のように顔を合わせる機会を設けるとともに、情報共有ツールを導入予定

C 今後に向けた展開



【「北海道物流プラットフォーム」への参画状況（R6.4.1時点）】

< 経済団体 >

- ・北海道商工会議所連合会
- ・北海道経済連合会

< 物流団体 >

- ・北海道トラック協会
- ・北海道物流を支える
鉄道輸送の会

< 商流・生産団体 >

- ・北海道物流研究会

< 行政機関 >

- ・北海道
- ・北海道開発局
- ・北海道運輸局
- ・北海道経済産業局
- ・北海道農政事務所

< 学識者 >

- ・北海商科大 相浦教授
- ・北見工大 高橋教授

その後の 「北海道での成果」

経済産業省
国土交通省
北海道庁

物流マッチングイベント「ロジスク」を開催します ～経済産業省・国土交通省・北海道による合同イベントを道東・道南で初開催～

経済産業省北海道経済産業局では、経済を支える物流が、担い手不足等の課題のほか、物流の2024年問題^{※1}にも直面していることを踏まえ、国土交通省北海道開発局・北海道運輸局及び北海道と連携し、企業間マッチングイベント「ロジスク^{※2}」を道東・道南で初開催します。

本イベントでは、荷主事業者や物流事業者間の交流を促し、自社の抱える物流課題などに関する意見交換の場を設けることにより、共同輸配送等の連携促進を図ります。

※1 トラックドライバーへの時間外労働上限規制の適用等により、産業活動に不可欠な物資が運べない事態が生じうる問題。

※2 ロジスティクスとスクラムを合わせた造語で、ワークショップによる共同輸配送等の実現に向けた企業間マッチングイベント。本イベントを通じて、共同輸配送等の問題点、課題等の解消を目指すもの。

ロジスク



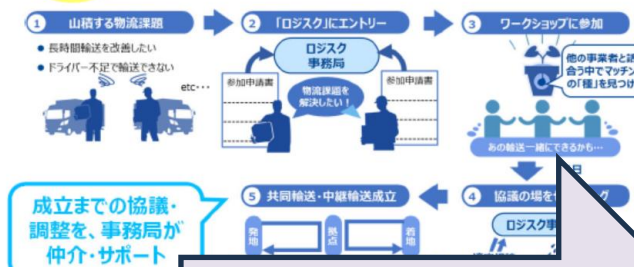
「2024年問題」に
お困りではないですか？

- 道内の物流課題解消に向けて、道内の物流事業者や学識者、行政等で2023年7月に発足した「共同輸送・中継輸送実装研究会」において、ワークショップによる物流事業者間のマッチングモデル「ロジスク」(ロジスティクス+スクラム)をスタートさせました。
- 共同輸送・中継輸送の実現に向けて、北海道開発局・北海道運輸局・北海道経済産業局・北海道の4者の共催により、「ロジスク」の取組を全道に拡大し、北海道の物流の維持・発展を目指します。

「ロジスク」が他社様との
マッチングをお手伝いします

- 「ロジスク」は、物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が**少人数のワークショップ**で話し合える場を提供します。
- 従来の車両マッチングアプリ等とは異なり、マッチング成立→共同輸送・中継輸送の実現まで、行政を含む**事務局がサポート**することで、継続性・信頼性の高い協力体制づくりを目指します。

「ロジスク」の参加イメージ



「ロジスク」に
ご参加ください！

- ロジスクは多くの事業者の皆様に参加をお待ちしています。
- お問合せは、下記までご連絡ください。

北海道開発局 開発総務部 開発調整課
TEL : 011-709-2311 (内線5472)
E-mail : hkd-ky-seisankuukan
@gxb.mlit.go.jp

オール北海道です

その後の「北海道での成果」

共配検討のために全道物流データを集積

物流研究会メンバー

イオン北海道
トライアルホールディングス
北雄ラッキー
明治ロジテック
西友
ムロオ
アイアイター
幸楽輸送
他

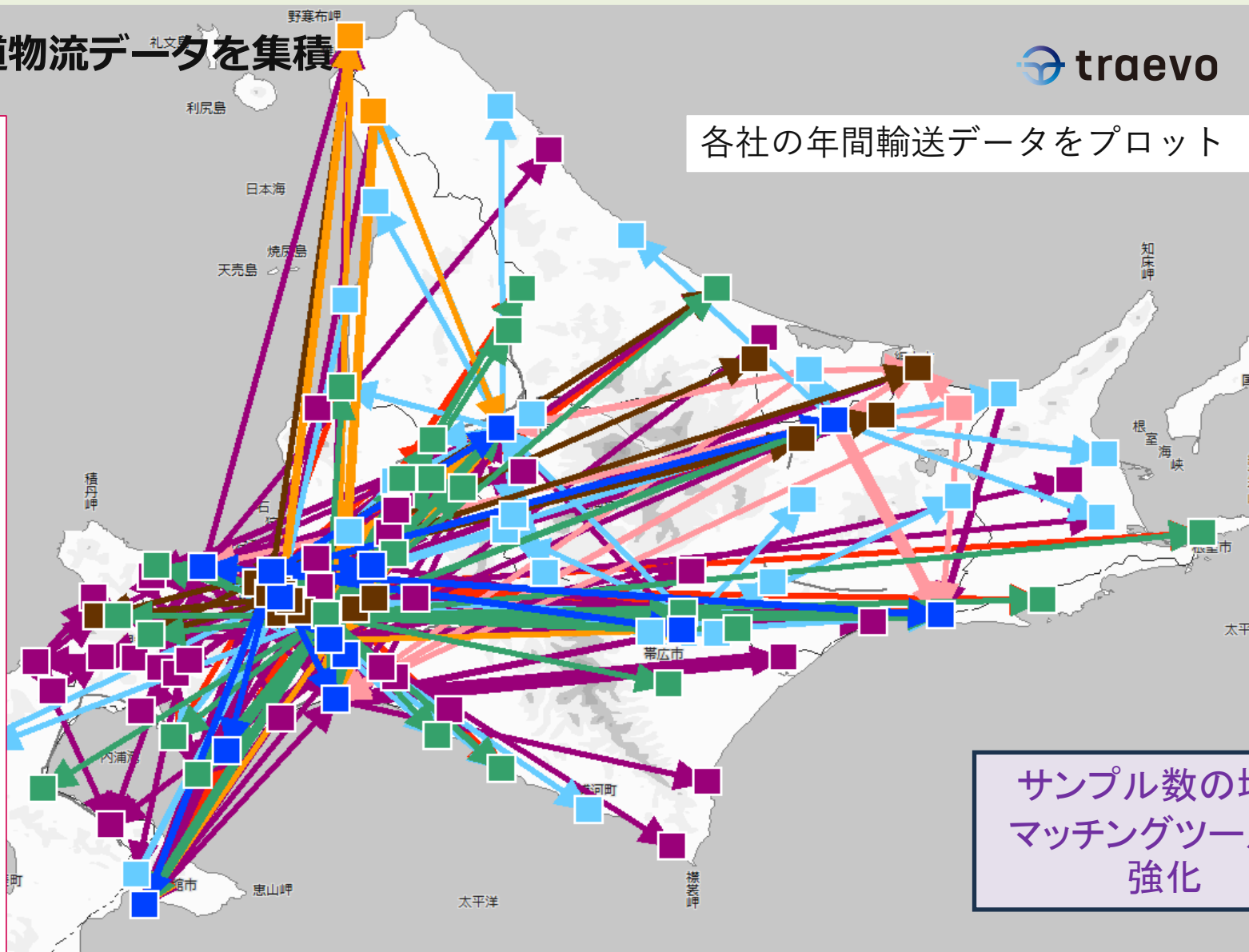
+オブザーバー会員3社

農業大手
小売大手
卸大手

+国交省ロジスク

2地域分データ
(北見・根室方面)

他業種・他地域の
輸送データも
逐次投入受付中

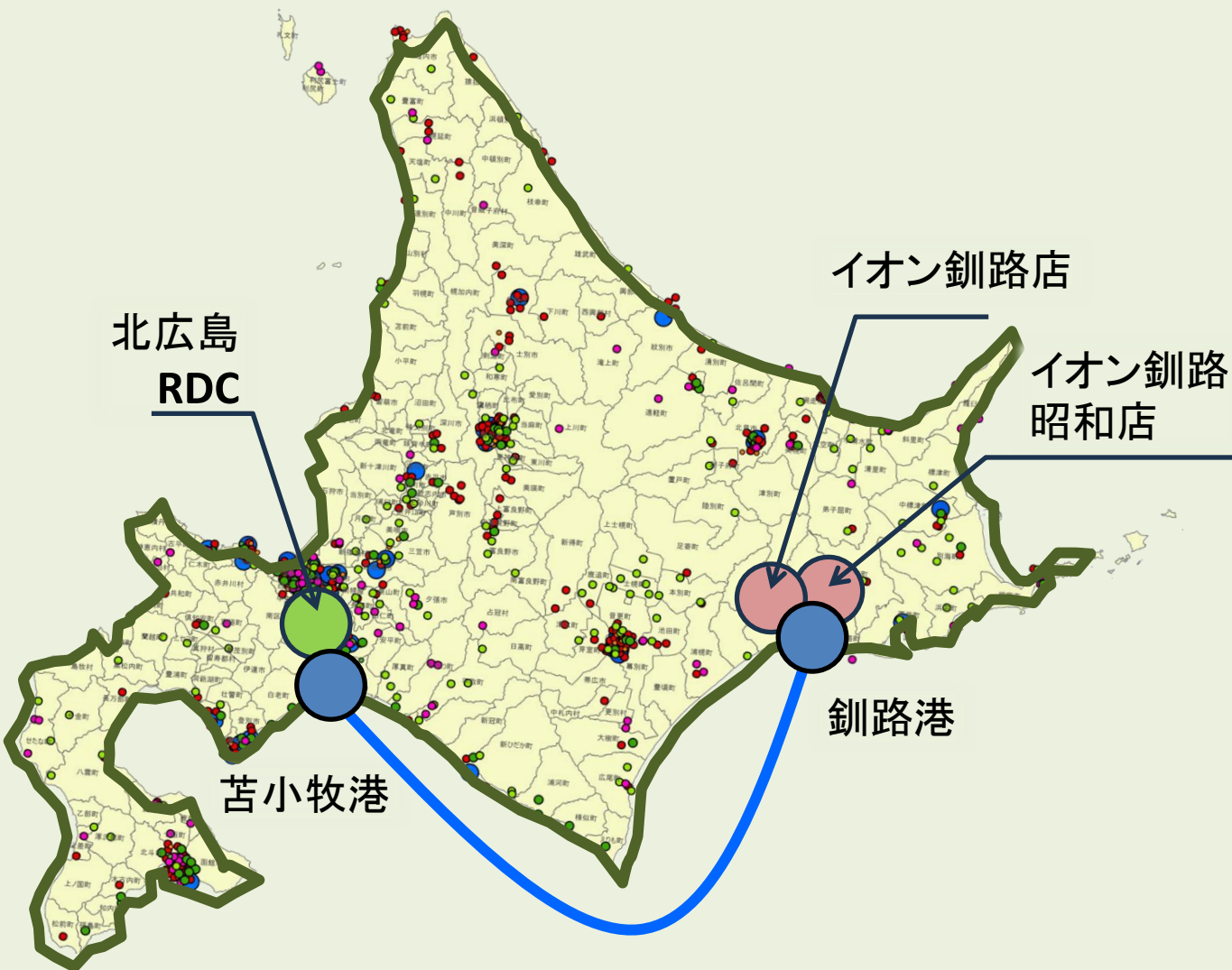


各社の年間輸送データをプロット

サンプル数の増強
マッチングツールの
強化

出所: 株式会社traevoより貸与

その後の「北海道での成果」



道央から釧路 商品海上輸送

イオン北海道（札幌）は20日、道央圏からイオン釧路店（釧路管内釧路町）、イオン釧路昭和店（釧路管内釧路町）にトラック輸送している生活雑貨や衣料品の一部商品を、海上輸送に置き換える実証実験を行うと発表した。同様の実験を行うのは同社では初めてで、労働規制強化でトラック運転手が不足する「2024年問題」の影響を回避する狙いだ。実証実験は釧路店と栗林商船（東京）と連携して行い、RORO船（フェリー型貨物船）を使う。今月23日に、道央圏配送センター（北広島市）から苫小牧港に商品をトレーラーで輸送し、シャシー（けん引される荷台部分）を船に積んで午後6時に同港を出発。翌24日午前8時には釧路港に

イオン北海道が実証へ

「24年問題」対応 災害時も想定

到着し、そこから商品を両店舗に輸送する。実験ではシャシー1台分の生活雑貨や衣料品を運ぶ計画だ。大手流通業者の札幌圏から道内他都市への商品海上輸送は珍しい。同社が商品の輸送を委託する運送会社などでは、ドライバー不足が顕在化。トラックで輸送していた分を海上輸送に置き換えた場合、トラックの運行距離は月間約2万9千キロ、CO₂排出量は約21ト削減できると見込んでいる。冬季の降雪や災害により、道央圏と釧路を結ぶ陸路や鉄路が不通となった際の補完機能としての役割も期待しており、今後、コスト面など本格導入に向けた課題を精査していく方針だ。（桜井翼）

出所：北海道新聞(2024.5.28)

スーパープレイヤ
としての可能性

北海道の「位置」

その後の「北海道での成果」

経済産業省
国土交通省
北海道庁

「2024年問題」にお困りではありませんか？

「ロジスク」が物流機種のマッチングをお手伝いします

「ロジスク」の参加イメージ

「ロジスク」にご参加ください！

オール北海道です

物流マッチングイベント「ロジスク」を開催します
～経済産業省・国土交通省・北海道による合同イベントを道東・道南で初開催～

経済産業省北海道経済産業局では、経済を支える物流が、担い手不足等の課題のほか、物流の2024年問題にも直面していることを踏まえ、国土交通省北海道開発局・北海道運輸局及び北海道と連携し、企業間マッチングイベント「ロジスク」を道東・道南で初開催します。本イベントでは、荷主事業者や物流事業者間の交流を促し、自社の抱える物流課題などに關する意見交換の場を設けることにより、共同輸送等の連携促進を図ります。

※1 トラックドライバーへの時間外労働と規制制の適用等により、道東道南に不可欠な物流が確保できない事態が生じうる問題。
※2 ロジスティクスとスクラムを含むことで、ワークショップによる共同輸送等の実現に向けた企業間マッチングイベント、本イベントを通じて、共同輸送等の課題点、課題等の解消を目指すもの。

フィジカルインターネット実現会議(2024.06.26)

◎北海道商科大学 相浦宣徳

その後の「北海道での成果」

道央から釧路 商品海上輸送

イオン北海道が実証へ

「24年問題」対応 災害時も想定

出所: 北海道新聞(2024.5.28)

スーパープレイヤとしての可能性

北広島 RDC

イオン釧路店

イオン釧路昭和店

釧路港

苫小牧港

フィジカルインターネット実現会議(2024.06.26)

◎北海道商科大学 相浦宣徳



その後の「北海道での成果」

共配検討のために全道物流データを集積

各社の年間輸送データをプロット

物流研究会メンバー

イオン北海道

トライアルホールディングス

北雄ラッキー

明治ロジテック

西友

ムロオ

アイアイデー

豪泰輸送

他

+ オプザバー会員3社

農業大手

小売大手

+ 国交省ロジスク

2地域分データ

(北見・根室方面)

他業種・他地域の輸送データも逐次投入受付中

サンプル数の増強
マッチングツールの強化

出所: 株式会社traevoより貸与

フィジカルインターネット実現会議(2024.06.26)

◎北海道商科大学 相浦宣徳

次のTarget

(商流情報の活用:
納品伝票の電子化など)

(う) 電子化(データ連携・蓄積)と活用

(い) 協調領域の範囲

(5) おわりに

- 活性化にむけて非常にありがたいトリガー
ありがとうございました。
- 地域内の地域間の連携が課題
- 地域の熱量
- (地域をとりまとめる)コーディネータ

(地域をとりまとめる)コーディネータとして

1. 研究会の趣旨

日本物流学会・地域の生活と産業を支えるサステナブル物流研究会
2023年度第1回研究会(2024.4.20)

昨今の物流課題を考えることは「次世代にどのような地域を残すか」を考えることと同義です。「物流のほそり」が他地域に先んじて深刻化している地域では、そのほそりが地域の「生活や産業のほそり」を招来しています。また、物流の効率化や脱炭素化の観点から、(地域と地域を結ぶ)基幹物流ネットワークの在り方が問われています。

本研究会では、このような地域やネットワークの現状や現段階での取組事例を把握すると共に、改善にむけた施策の提案を目指します。



まずは、

- ・定期的な情報交換
- ・地域をこえた研究者間の交流
- ・研究対象をこえた研究者間の交流
- ...

2024.04.20

4. 当面の運営・スケジュールなど

日本物流学会・地域の生活と産業を支えるサステナブル物流研究会
2023年度第1回研究会(2024.4.20)

日本物流学会

研究部門

- ・ 物流若拓研究会
- ・ ビジネスセッション研究部会
- ・ 関西共同物流研究会

・ 地域の生活と産業を支えるサステナブル物流研究会

研究グループ

(群1)生産地から消費地への輸送に関するテーマ
(主)相浦宣徳、(副)高橋愛典
(長距離輸送、小ロット輸送、貨客混載など)

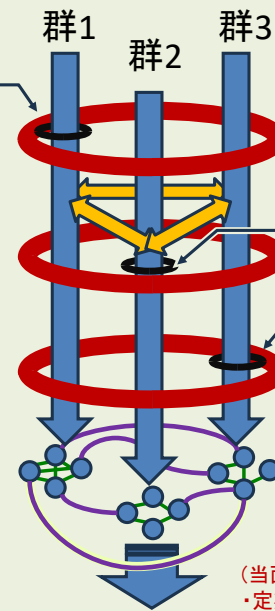
(群2)過疎地域・離島や山間地などの輸送困難地域への生活必需品の供給に関するテーマ
(主)男澤智治、(副)高橋愛典
(貨客混載、買い物支援、ドローン支援など)

(群3)基幹物流ネットワークの形成に関するテーマ
地域への生活必需品の供給に関するテーマ
(主)黒川久幸、(副)相浦宣徳
(モーダルシフト、貨物鉄道・海上輸送の利用促進、自動運転など)

2024年度1回目
北海道支部・研究会
(2024.06.15)

2024年度2回目
九州部会・研究会
(2024.07.20)

2024年度3回目
関西部会・研究会
(2025.03.07)



(当面の目的)

- ・ 定期的な情報交換
- ・ 地域をこえた研究者間の交流
- ・ 研究対象をこえた研究者間の交流
- ...

2024.04.20